

国際シンポジウム in 京都

障害者 の 芸術表現 を 考える

誰が、なぜ、どのように、評価する／されるのか？



◀大川 誠「Makoot」

"Rethinking the Artistic Expressions of the Disabled"

欧米では近年、美術館や国際芸術祭において障害者の創作した美術作品が積極的に展示されるようになり、アート市場でも関心が高まっています。わが国では福祉施設が先駆的に取り組んできた背景があり、芸術的評価への希求とともに「障害者に対する見方を変えたい」という思いも強く、“アール・ブリュット”“アウトサイダー・アート”などの概念をめぐる議論も活発に行われています。障害者が創作した美術作品の位置づけや評価はどうあるべきでしょうか。海外の実践を参考にしながら今後の展望を描くための機会として、国際シンポジウムを開催します。

In what context should works of art created by people with disabilities be seen, and how should they be evaluated? We are holding an international symposium that will be an opportunity to paint a vision for the way forward.

- 日時** 2016年10月15日(土) 14:00～16:30 ※13:15～受付開始
Date: October 15 (Saturday), 2016 Time: 14:00～16:30
※Registration begins at 13:15
- 会場** 同志社大学(室町キャンパス) 寒梅館ハーディーホール
Place: Hardy Hall in the Kambaikan Building at Doshisha University (Muromachi Campus)
- ゲスト** エドワード M.ゴメズ(美術記者、美術評論家、作家、環境活動家)
(敬称略) Edward M. GOMEZ (Arts Journalist, Art Critic, Author, Environmental Activist)
- 服部 正(甲南大学 准教授)
Tadashi HATTORI (Associate Professor of Konan University)
- トム・ディ・マリア(クリエイティブ・グロウス・アートセンター ディレクター)
Tom di MARIA (Director of Creative Growth Art Center)
- モデレーター** 佐々木 雅幸(NPO法人都市文化創造機構 理事長、同志社大学 教授)
Masayuki SASAKI (Executive Director of Creative City Consortium (NPO), Professor of Doshisha University)

*日英同時通訳、手話通訳あり

主催：文化庁、NPO 法人都市文化創造機構
共催：同志社大学ライフリスク研究センター・創造経済研究センター
後援：京都府、京都市 *日英同時通訳、手話通訳あり
参加費：無料 定員：250人(申込み先着順)



ゲストのプロフィール



エドワード M. ゴメズ (美術記者、美術評論家、作家、環境活動家)

Edward M. GOMEZ (Arts Journalist, Art Critic, Author, Environmental Activist)

日本のモダンアートの美術史とアール・ブリュット、アウトサイダー・アート、独学アーティストの作品を専門とする。アール・ブリュットとアウトサイダー・アートを紹介する雑誌 RAW VISION の編集者であり、美術本や展覧会のカタログも多数執筆。また、ニューヨーク・タイムズ紙やジャパン・タイムズ紙等にも寄稿。スイス・ローザンヌの美術館「アール・ブリュット・コレクション」の諮問委員も務める。

<参考>「アール・ブリュット・コレクション」は1976年、フランスのモダンアーティストであるジャン・デュビュッフェの蒐集作品をもとに開設された。世界初のアール・ブリュット専門美術館である。



服部 正 (甲南大学 准教授)

Tadashi HATTORI (Associate Professor of Konan University)

兵庫県立美術館学芸員(1995~2012年)、横尾忠則現代美術館学芸員(2012~2013年)を経て、2013年4月より現職。専門は美術史・芸術学。アウトサイダー・アートやアール・ブリュットなどと呼ばれる独学自修の芸術家や、障害者の創作活動などについての研究や展覧会企画を行っている。著書に『アウトサイダー・アート—現代美術が忘れた「芸術」』(光文社新書、2003年)、『解剖と変容—アール・ブリュットの極北へ』(現代企画室、2012年、共著)、『山下清と昭和の美術—「裸の大将」の神話を超えて』(名古屋大学出版会、2014年、共著)、『障がいのある人の創作活動—実践の現場から』(あいり出版、2016年、編著)など。その他、障害者の創作やアウトサイダー・アートに関する論文、講演、公募展審査など多数。2017年に兵庫県立美術館、名古屋市美術館、東京ステーションギャラリーを巡回するアドルフ・ヴェルフリの大規模な展覧会の企画者のひとりでもある。



トム・デイ・マリア (クリエイティブ・グロウス・アートセンター ディレクター)

Tom di MARIA (Director of Creative Growth Art Center)

カリフォルニア大学バークレー校のバークレー美術館/パシフィック・フィルム・アーカイヴにてアシスタント・ディレクターを務めた後、2000年から現職。クリエイティブ・グロウスの障害をもつアーティストたちが現代アートの分野で評価されるよう、美術館やギャラリー、デザイン企業等との連携を促進するとともに、アウトサイダー・アートと現代アートの関係について世界各地で講演を行っている。MFA(Master of Fine Arts)取得。

<参考>クリエイティブ・グロウス・アートセンターは、アート制作を通して障害者に自己実現や社会参加の機会を提供するため1974年に設立された、アメリカでもっとも古く、最大のセンターである。Judith Scott, Dan Miller等のすぐれた作家を育て、その作品はニューヨーク近代美術館をはじめ、ブルックリン美術館他で展示・収蔵されている。

Access

同志社大学(室町キャンパス)

寒梅館ハーディーホール

【京都市上京区烏丸通上立売下ル御所八幡町 103】

京都市営地下鉄烏丸線「今出川」駅②出口徒歩1分

<http://www.doshisha.ac.jp/information/campus/access/muromachi.html>



◎NPO法人都市文化創造機構は、創造都市ネットワーク日本(CCNJ)に参画し、創造都市に関する調査研究・情報提供・政策支援・人材育成等を行っている。また、障害者の芸術表現活動の支援を創造都市政策に位置づけることをめざし、インクルーシブ・カフェ等を開催している。

関連情報

11月22日(火)夜に、象の鼻テラス(横浜市)でもシンポジウムを開催します。ゲストは、スリュノ・ドゥシャルム(abcd設立者、映像作家)、バルバラ・シャファー・ジョヴァー(abcd代表者、研究者)、建富哲(詩人、美術評論家、埼玉県立近代美術館館長、多摩美術大学学長)です。

参加申し込み方法

準備の都合上、事前にお申込みをいただくとありがたいです

ご氏名(ふりがな)、ご所属、ご連絡先(電話番号かメールアドレス)、参加人数、手話通訳の要・不要をご記入の上、下記宛にメールまたはFAXをお送りください。FAXの場合は下記にご記入の上そのままお送りください。

申込先: NPO法人都市文化創造機構



メール

incl1@ccn-j.net

FAX

06-6474-3474

ふりがな

ご氏名

ご連絡先

ご所属

参加人数

手話通訳 要 ・ 不要